
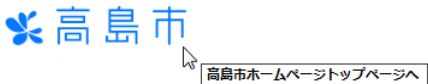
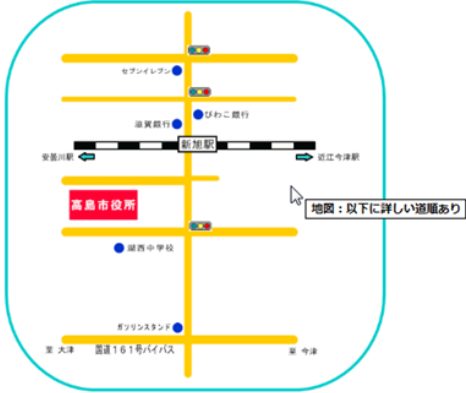


高島市ウェブアクセシビリティガイドライン

(1) データ作成上の技術的な注意事項

高島市HPから情報を発信しようとする作成者は、ウェブが全ての人にとって重要な情報源として利用されていることを充分認識し、作成されたデータが以下の事項に適合するよう努めなければならない。




項番	内容	達成等級
1	知覚可能に関する原則 利用者がウェブコンテンツの存在や内容を知覚できるように配慮します。	
1-1	代替テキストに関するガイドライン テキストで提供された情報は、利用者が必要に応じて、拡大表示したり、読み易い色に変えたりすることができます。また、テキストの内容を音声で読み上げることや点字に変換して出力することも可能です。 画像のようなテキストでないコンテンツ（非テキストコンテンツ）においても、利用者が必要とする形式に変換して利用できるように代替テキスト（コンテンツで提供する情報の内容や役割を伝えるテキスト）を提供します。 音声読み上げソフトが画像などの内容を表した代替テキストを読み上げることにより、利用者が画像などで表現されている情報を理解できるようになります。	
1-1-1	<p>非テキストコンテンツに代替テキストを用意します。</p> <p>リンク画像、写真、実行ボタンなどは、それが提供する情報の内容や役割を代替テキストで端的に表現してください。 単語や短い文章が画像化されている場合、原則としてその内容をそのまま代替テキストにして提供します。</p> <p>① 適切な代替テキストを提供 画像にリンクを設定する際は、リンク先の内容を想像できる代替テキストを提供します。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>(悪い例)</p>  <p>※「ロゴ」だけではどのウェブサイトのロゴか分からない</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>(良い例)</p>  <p>※画像の示す情報を代替テキストとして提供</p> </div> </div> <p>② 複雑な情報を示した画像の代替 長い説明や複雑な説明が必要な非テキストコンテンツの場合は、伝える情報を丁寧に説明するテキストをすぐ近くにおきます。 ※右図のように、画像近くに代替テキストを活用している例→</p> <div style="text-align: right;">  </div> <p>自動車をご利用の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ●名神高速京都東1Cから国道161号線 約1時間30分 ●北陸自動車道木之本1Cから国道303号線・国道161号線 約40分 ●北陸自動車道敦賀1Cから国道 約45分 <p>電車（JR）をご利用の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ●京都駅から浜西線敦賀・永原・近江今津行 新旭駅下車 徒歩2分 ●敦賀・長浜方面から浜西線經由京都行 新旭駅下車 徒歩2分 	A

1-2	時間の経過に伴って変化するメディアに関するガイドライン 音声や画像によって提供されている情報が、どの利用者にも確実に伝わるような配慮します。	
1-2-1	音声／映像情報はテキストを用意します。 <音声情報をテキストでも提供> 音声情報と併せてテキストを提供することにより、音声を聞けない利用者も情報を得ることができます。 (例) 記者会見を録音した音声を提供する場合は、記者会見で発言された内容を書き起したテキストを併せて掲載します。 <映像情報をテキスト／音声トラックで提供> 映像で提供する情報と併せてテキストを用意することにより、映像を見れない利用者も情報を得ることができます。 (例) 商品の組み立て方を説明した画像を提供する場合、組み立て方を説明したテキストを併せて掲載します。 なお、映像の内容を説明する音声(音声トラック)を併せて提供する方法もあります。	A
1-2-2	音声を含む収録済みコンテンツにはキャプションを用意します。 音声や映像ファイルおよび Flash などで作成された音声や画像付きウェブコンテンツに含まれる収録済み音声コンテンツに対し、キャプションを用意します。 注釈) キャプションとは「メディアのコンテンツを理解するのに必要な、会話および会話でない音声情報の両方に対する、同期した視覚的表現または代替テキストで説明したもの」 テキストによって情報が提供されており、それを補完するものとして収録済みの音声コンテンツを提供する場合は、キャプションを提供する必要はありません。	A
1-2-3	映像を含む収録済みコンテンツにはテキスト／音声ガイドを用意します。 収録済みの映像コンテンツに対し、場面の状況や登場人物の動作などを含めて映像の内容を全て説明するテキストを代替コンテンツとして用意するか、音声ガイドを用意します。 注釈) 音声ガイドとは「場面の状況や登場人物の動作などを音声で解説したもの」	A
1-2-4	音声を含むライブコンテンツにはキャプションを用意します。 対象ページにライブコンテンツ(生中継)はございませんので、適合外とします。	適合外
1-2-5	映像を含む収録済みコンテンツには音声ガイドを用意します。 収録済みコンテンツに対し、音声ガイドを提供します。	AA



←キャプション付きの映像ファイル例
(字幕の表現のように視覚的表現)

1-3	適応可能に関するガイドライン 画面に表示される内容を、音声読み上げソフトで聞いた場合や、単純なレイアウトに変換して閲覧した場合などでも、的確に内容を理解できるように配慮します。	
1-3-1	文書の構造を分かり易く示します。 <1> 音声読み上げソフトなどのプログラムが文書の論理的な構造を解釈できるようにします。 (例)「見出しの部分では効果音を鳴らす」「箇条書きの項目部分では読み上げる声を変える」というように、その部分が見出しや箇条書きであることを利用者に伝えることができます。 <2> 見出し部分に画像を用いるときは代替テキストを記述します。 <3> 分かり易い表を作成します。 (Pint)・表で情報を提供することが最適か十分に検討します。 ・分かり易い表のタイトルを付けます。 ・表の構造をできる限り単純にします。 ・見出しとデータの関係を明確にします。 <4> 入力欄の名称と入力欄の関係を明確にします。 テキストボックスやラジオボタンなどの構成部品とそのラベルとの関係を明確にすることにより、音声読み上げソフトがフォームへの入力内容を正確に伝えられるようになります。	A
1-3-2	情報を適切な順序で正確に読めるようにします。 <1> 音声読み上げソフトで利用する場合は、ページの上から下へ順々に内容を読んでいます。そのため、情報の表示順序や読み上げの順序が、文書の「意味の順序」と矛盾しないように配慮します。 <2> 単語の途中にスペースや改行を挿入してしまうと、音声読み上げソフトは1つの単語として認識できず正しく読み上げることは出来ません。 (悪い例)「経 済」→「けい すみ」 または 「国 際」→「くに さい」のように読み上げてしまいます。 <3> リンクの途中で改行を挿入している場合にも、音声読み上げソフトは正しく読み上げることは出来ません。 (悪い例) リンク途中で改行した場合、音声読み上げソフトは改行の直前で一度読み上げを停止し、利用者の操作によって続きの言葉を読み上げるため、利用者には2つのリンクがあるように聞こえてしまいます。	A
1-3-3	形や位置などが分からなくても情報が伝わるようにします。 形、位置のほか、大きさ、方向、音などを認識できない利用者にも情報が適切に伝わるように配慮します。 形や位置だけに依存して情報を提供すると、音声読み上げソフトの利用者はその情報を得ることが難しくなります。 そのため、形や位置によって情報を提供する場合には、テキストなどの情報も併せて提供します。	A
1-4	識別可能に関するガイドライン 利用者が必要とする情報を支障なく識別し、利用できるようにするための配慮を行います。	

1-4-1	<p><u>色の違いが分からなくても情報が伝わるようにします。</u></p> <p>色を識別できない利用者や音声読み上げソフトの利用者は、色によって提供された情報を認識することができません。色を使って情報を提供する場合は、色を効果的に活用するとともに、色の違いが分からない人でも情報を理解できるようにテキストなどの情報を併せて提供します。</p>	A
1-4-2	<p><u>音を停止したり音声を調整したりできるようにします。</u></p> <p>ウェブコンテンツの中で音を用いる場合には、自動的に再生しないようにします。3秒より長く自動的に再生する必要がある場合には、利用者が一時停止あるいは停止する仕組み、または利用者が音量を調整できる仕組みを、ページの先頭付近で提供します。</p>	A
1-4-3	<p><u>文字色と背景色のコントラスト比に注意します。</u></p> <p>ウェブコンテンツ中の文字の色と、その背景の色との間に十分なコントラストがない場合、弱視の利用者や色覚障害を持つ利用者、高齢者などは、文字が読みにくくなります。特にウェブコンテンツの背景に画像を用いる場合や、写真の上に文字を配置する場合には注意が必要です。</p> <p><1> 同系色を用いない、明るさの異なる色を用いるなど注意します。 <2> 写真の上に文字を乗せたり、テキストの背景に画像を用いたりする場合には、文字の色と背景色の組み合わせに注意し、文字の背景となる部分はなるべく1つの色になるようにしてください。</p> <p>(例) 写真の上に画像を乗せる場合の例 下図の3つの例のうち、左と真ん中の図は、「びわ湖源流の郷たかしま」の部分が背景の画像と重なっているため、読みにくくなっています。右の図は、文字の色と背景色との間に十分なコントラストが確保されています。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">    </div>	AA
1-4-4	<p><u>利用者が文字を拡大して利用できるようにします。</u></p> <p>ウェブコンテンツ内の文字の大きさを、利用者が変更できるようにします。また、必要に応じて文字の大きさを200%まで拡大する機能を提供します。 文字の大きさを200%（幅と高さが2倍）まで拡大した場合でもウェブコンテンツを問題なく利用できるようにします。 ※ただし、キャプションおよび画像化された文字は除きます。</p>	AA

1-4-5	<u>文字を画像化せずテキストで提供するよう努めます。</u> 意図する視覚的な表現をスタイルシートによって、実現可能な場合は、利用者が文字を自分の読み易い表示に変更できるように、文字を画像化せずテキストで提供します。 ※ただし、ロゴタイプや書体のサンプルなど特別な表現が不可欠な文字を提供する場合や、スタイルシートを用いるなどして画像化された文字をテキストに置き換えて表示する仕組みを提供する場合には、文字を画像化して提供することを可としています。	AA
2	操作可能に関する原則 すべての機能を誰もが操作できるように配慮します。	
2-1	キーボード操作可能に関するガイドライン 全ての機能をキーボードから利用できるようにします。	
2-1-1	<u>マウスだけでなくキーボードでも操作できるようにします。</u> コンテンツの全ての機能は、キーボードインターフェースで操作できるように作成します。 ※ただし、その根本的な機能が単に利用者の動作の終点に依存しておらず、利用者の動作による軌跡に依存して実現されている場合は除く。具体的には水彩画のお絵かきプログラムのようなウェブコンテンツなどを指しています。水彩画ではひと筆の微妙な移動速度や時間に基づいて表現する必要があり、キーボードインターフェースでは同様の表現を実現できないと考えられるため、例外となります。 注釈) キーボードインターフェースとは「キーボードによる入力に加えて、音声入力やソフトウェアキーボードによる入力など、ソフトウェアによってキーボード入力を実現する仕組み」	A
2-1-2	<u>キーボードフォーカスの移動を妨げないようにします。</u> キーボードインターフェースで操作する利用者が、フォーカスの当たる対象を自分の意思で移動できるようにします。 配慮がないと、ページ内の一部分にフォーカスが当たった際に、キーボードインターフェースによる操作でフォーカスを移動できなくなるという問題が起きます。 注釈) フォーカスとは「ページ内のリンクやフォームなどが選択あるいは入力可能な状態となること」	A
2-2	十分な時間に関するガイドライン 利用者がコンテンツを読んだり使用したりするのに時間の制約を受けないようにします。	
2-2-1	<u>多様な利用者に配慮して制限時間を設けます。</u> 対象ページに制限時間のあるコンテンツはございませんので、適合外とします。	適合外
2-2-2	<u>動きのあるコンテンツが閲覧を妨げない様に配慮します。</u> 対象ページに動き・スクロール・自動更新されるコンテンツはございませんので、適合外とします。	適合外
2-3	発作の防止に関するガイドライン 光過敏性発作を引き起こす恐れのないようにコンテンツを設計します。	

2-3-1	<p><u>閃光は1秒間に3回以下、あるいは閾値（いきち）を下回るようにします。</u></p> <p>ウェブコンテンツの変化はけいれんなどの発作を誘発する可能性があるため、明るさや色の連続する変化、特に急速な変化を避けます。 変化が必要な場合は、どの1秒間においても3回以下とすることにより、発作につながる可能性が小さくできると示されています。</p>	A
2-3-2	<p><u>閃光は1秒間に3回以下とします。</u></p> <p>発作につながる可能性をより小さくするために、対象の明るさやサイズに関係なく、閃光を1秒間に3回以下とします。</p>	AAA
2-4	<p>ナビゲーション可能に関するガイドライン 利用者がナビゲートしたり、コンテンツを探し出したり、現在位置を確認するのを手助けする手段を提供します。</p>	
2-4-1	<p><u>効率よくページ内の情報へ移動できるよう配慮します。</u></p> <p>トピックス情報や新着情報はページ内の最初のリンクとして設置することにより、利用者が効率よくページ内の情報へ移動できるようにします。</p>	A
2-4-2	<p><u>分かりやすいページタイトルを付けます。</u></p> <p>作成する各ページに対して、その内容を要約したページタイトル（主題、目的、説明）を設定します。 ページタイトルがなかったり、不適切だったり、複数のページに同じタイトルが付けられていたりすると、そのページが目的のページかどうかをページタイトルから判断できません。</p>	A
2-4-3	<p><u>フォーカスが分かりやすい順序で移動するようにします。</u></p> <p>利用者が音声読み上げソフトやキーボードを用いて順を追って操作する場合に、フォーカスが情報の意味に沿って移動するようにします。</p>	A
2-4-4	<p><u>リンク先を想像できるリンクを用意します。</u></p> <p>リンクの表現が分かり難いと、ページを移動する際に混乱が生じます。例えば、リンクが設定してある言葉の内容と移動先ページのタイトルが大きく異なると、利用者は自分が間違ったリンク先を選択したのかと思い、混乱しかねません。 そのためにも、快適にウェブサイトを利用してもらうために、分かりやすい言葉・リンク先を想像できる言葉で表現します。</p>	A
2-4-5	<p><u>ウェブサイトにページ探索の手段を複数提供します。</u></p> <p>サイトマップ、検索機能、関連するページへのリンクなどの利用者が情報を探す手段を提供します。</p>	AA

2-4-6	<u>文書内の見出しおよびラベルは分かり易い内容にします。</u> ページ内から目的としている情報を探しやすくするために、見出しおよびラベルのテキスト情報の内容を想像しやすい表現にします。 ページ内の文章などを内容のまとまりによって適切に分割して見出しをつけたり、適切なラベルを付与したりすることにより、利用者はそのページの内容を素早く理解できるようになります。	AA
2-4-7	<u>キーボードのフォーカスを視覚的に認識できるようにします。</u> ページ内のどの要素が選択・入力可能な状態になっているか視覚的に理解しやすいように、キーボードのフォーカスが当たった際にリンクテキストが点線で囲まれるように配慮しています。	AA
2-4-8	<u>現在位置を把握するための仕組みを提供します。</u> ウェブサイト内の共通の仕組みとして、現在閲覧しているページがウェブサイト内のどこに位置しているのかを示す対応を行っています。 ウェブサイト内の階層構造における位置を示し、上位の階層に移動するための手段を提供します。	AAA
2-4-9	<u>リンクの言葉を読んだだけでリンク先を想像できるようにします。</u> 前後の文脈にかかわらず、リンクテキストだけを読んでリンク先を想像できるようにします。 ただし、リンクの目的が一般的にみて利用者にとって曖昧な場合は除く。	AAA
2-4-10	<u>文書の内容を適宜見出し分けします。</u> ページ内の文章などを内容のまとまりごとに、適切に見出し分けをします。	AAA
3	理解可能に関する原則 読み易く、分かり易いコンテンツを作成します。	
3-1	読みやすさに関するガイドライン 利用者がウェブコンテンツを理解できるように、読み易く分かり易い表現を用います。	
3-1-1	<u>どの言語で書かれたページであるかを明示します。</u> ウェブコンテンツの中で使用されている言語を明確にします。	A
3-1-2	<u>異なる言語が使用される箇所で言語を明示します。</u> 音声読み上げソフトなどが複数の言語も適切に情報を出力できるように、使用言語を明確に指定します。	A
3-2	予測可能に関するガイドライン ウェブページの表示や動作を予測可能となるようにウェブサイト内で一貫性を持ちます。	

3-2-1	<u>フォーカスが当たった際に状況を変化させません。</u> ページ内のある一部分にフォーカスが当たった際に、自動的に状況の変化が起こらないように配慮しています。	A
3-2-2	<u>フォームの入力や選択の結果を予測可能とします。</u> フォームへ入力をしたり選択を行ったりした際に、利用者の意図しない変化が起こらないように配慮しています。 例えば、プルダウンメニューには「実行ボタン」を付けます。実行ボタンがなく、メニュー項目を選択するだけでプログラムを実行するようなプルダウンメニューは、キーボードだけでは操作ができません。	A
3-2-3	<u>ナビゲーションの仕組みを統一します。</u> ウェブサイト全体でナビゲーションの仕組みを統一しています。 例えば、ウェブサイトの主要なカテゴリーへのリンクや「次ページの先頭へ」「1つもどる」などのように、ウェブサイトの中を移動するために提供するリンクを統一しています。	AA
3-2-4	<u>同じ内容や機能を表すものは名前や見栄えを統一します。</u> ウェブサイト内で同じ内容や機能を表す見出し、リンク、アイコンなどの名前や言葉、見栄えを統一しています。	AA
3-2-5	<u>利用者を戸惑わせる状況の変化を起こさないようにします。</u> ページ内容の自動更新、ページの自動遷移、新しいウィンドウの自動表示など、意図しない状況の変化は利用者の混乱につながる恐れがあります。利用者の意図しない状況の変化を起こさないように配慮しています。	AAA
3-3	入力支援に関するガイドライン 利用者が間違えないようにしたり、間違いを修正したりするのを助けます。	
3-3-1	<u>入力の間違いについてテキストで明示します。</u> 対象ページには特定の入力を要求しエラーが発生するコンテンツはございませんので、適合外とします。	適合外
3-3-2	<u>入力すべき内容と入力方法を説明します。</u> 入力欄のタイトル（ラベル）、入力方法の説明を分かり易く提供します。 入力フォームの入力欄や選択肢などに簡潔で分かり易いラベルを付け、何を入力すればよいのかを明確に伝えます。また、入力を必須としている項目がある場合、カタカナでの入力を求める場合、文字数に制限がある場合など、入力方法に何らかの条件があるときには、その内容を分かり易く提示します。	AA
3-3-3	<u>入力内容の修正方法を提示します。</u> 対象ページには特定の入力を要求しエラーが発生するコンテンツはございませんので、適合外とします。	適合外

3-3-4	<u>入力の間違いを防ぐ仕組みを提供します。</u> 対象ページに、法的義務・金銭的取引・データ変更・回答送信するような利用者に不利益が生じるコンテンツはございませんので、適合外とします。	適合外
4	頑健性に関する原則 作成するウェブコンテンツをユーザエージェントが問題なく解釈し、利用者に正しく情報を伝達できるように配慮します。	
4-1	互換性に関するガイドライン 支援技術者がコンテンツを問題なく解釈し利用者に情報を伝達できるように、ウェブコンテンツを標準的なルールにのっとり作成します。	
4-1-1	<u>技術の仕様に則り正しい文法で作成します。</u> コンテンツの作成や更新する場合は公開する前に必ず確認することを心掛けて実施します。 ウェブコンテンツが関連する技術の仕様に基づき、正しい文法で作成されることにより、音声読み上げソフトなどの支援技術を使用する利用者に正しく情報を伝えられます。	A
4-1-2	<u>支援技術が利用可能なウェブコンテンツを開発します。</u> 音声読み上げソフトが問題なく使用できるように作成します。 作成者にはガイドラインに則り作成するように研修会を実施し教育します。	A